

「川床中学校の鐘（鉦）踊り伝承活動の取組」

1 学校名

長島町立川床中学校

2 学年・人数

1年生（20人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年6月～9月 総合的な学習の時間（15時間・本校体育館）
令和5年9月5日（火） 着付け教室・保護者へ披露（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月10日（日） 体育大会（本校グラウンド）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

鐘（鉦）踊り（かねおどり）

(2) 由来

1565年、野田領主の島津忠兼が城川内の堂崎城主天草越前正を攻め滅ぼし島津領としたが、同年7月に忠兼は甥の出水領主島津義虎に出水城で謀殺された。その後、長島全土に悪疫が流行、島民は忠兼のたたりとしてその霊を慰め、亡くなった人々の魂を鎮めるために、踊りを奉納するようになった。

(3) 構成等

2種類の鐘（平・入）、太鼓をならしながら、さまざまな隊形を組みながら動いていく。途中、歌いがある。地域に伝承されている歌いを短くし、歌詞の内容も教育的に配慮されたものになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

平成2年から伝承活動を行い、現在34年目である。練習から地域に住む保存会の方に学校に来ていただいて、子どもたちに手ほどきしていただいている。また、発表の前に衣装の着付け教室を保護者にも参加してもらい実施している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

(1) 保存会の代表が来校し、由来・譜読み・楽器の奏法を指導していただく。

(2) 本来口承で伝えられているが、中学生が理解しやすいよう独自の楽譜を保存会が作成して指導していただいている。

(3) 独特な装束の着付けを保護者にも協力していただき、体育大会当日の着付けにつなげている。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【練習始め】



【着付け教室】



【体育大会での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【1年生生徒】

地域の指導者の方が毎時間教えてくださり、あきらめずにコツコツ練習することができた。太鼓や振りができるようになると楽しくなった。地域の伝統芸能を引き継いでよかった。後輩たちも前向きに、楽しく取り組んでほしい。

【教職員】

地域の方の御指導のもと、何度も練習を重ね本番に臨む生徒を見て、その成長の早さに驚かされた。保護者も中学校在学中に鐘踊りを経験している方が多く、生徒の頑張りを応援してくださった。この伝統を今後も続けていければと願っている。

【地域の方から】

毎年、鐘や太鼓の音が聞こえると「この季節がやってきたんだなあ」と感じる。いつも楽しみにしている。